

氏名	まつ まさ てい じ 松 政 貞 治
学位(専攻分野)	博 士 (工 学)
学位記番号	論工博第3513号
学位授与の日付	平成12年3月23日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学位論文題目	都市の環境構成を意味の沈澱・蘇生に関する研究 パリの都市建築の歴史性を通して
論文調査委員	(主査) 教授 岡崎甚幸 教授 中村良夫 教授 橋 康夫

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、建築や都市環境における歴史的、文化的構成の手法と、そうした環境構成によって表現された意味、すなわち各時代の様々な設計行為により、歴史的に積み重ねられ(沈澱)、また再生されてきた(蘇生)空間的、形態的な表現内容である意味とについて、パリの都市建築を事例としながら研究したものである。現代都市のそれぞれの場所に、伝統として受け継がれ、人々に共有されてきた意味という都市の歴史性を取り戻すための新たな視点を提示している。このように本論文は、都市の生活環境の構成における最も重要な課題として、この意味・歴史性の沈澱・蘇生について論じた結果をまとめたものである。全体は、序と二つの章、結びからなる。

序では、記号論、パリの都市形成、都市建築とその類型等の既往研究の問題点を指摘し、本論文の、都市と建築を都市建築として歴史的文化的に一体的に構成されるものとして捉える視座と、個人や共同体による生活環境の構成として都市形成を捉える上での課題を示している。

第一章では、都市の環境構成を意味・歴史性の視座から捉えるための方法論の確立を試みている。都市建築の形態や空間の構成において、歴史的な類似性や、手本として参照することによって発生する意味的な相互関係に注目している。西洋の都市や建築の理論における主導的な概念や設計における重要な手法の形で、その相互の意味的關係づけを保証してきたものを、西洋の都市や建築の理論的な探求の中に見出している。それらは、隠喩(類似による形態的な喩え)、模倣(イメージを真似ること)、類型(歴史的地域的に特徴的な型すなわち類似の形式)、類推(都市に固有な歴史的記憶及び連想)、ゲニウス・ロキ(地霊的な場所の特性)、集団記憶(共同体が共有する歴史的記憶)であるとしている。これらの概念は都市建築の形態や空間の構成に際し、その場所の特性や歴史、また他の場所や他の建築との相互的な参照関係として沈澱した意味・歴史性を蘇らせ、相互の繋がりを連想させる役割を担うものと捉えている。次に生活空間の歴史的、文化的構成の手法としてのそれらの概念を使用し、取り戻された意味・歴史性の表現方法の意図的な更新の形で、都市的環境の形態や空間の設計において新しい意味を創造することとは何かを論じている。その上で、歴史的沈澱の共同的な側面の重要性を論じることによって、都市的環境の構成が、生活空間における意味・歴史性の沈澱・蘇生を、空間的及び形態的に、意識的に分節しつつ表現することとして捉えられることを示している。

第二章では、ソルボンヌなどのコレージュ(中世以来の寄宿学校)が特徴的な類型として数多く沈澱したパリのユニヴェルシテ地区の都市建築の、歴史的及び共同的な生成としての環境構成を、17世紀以後に作成された地籍図や街路開削計画図面などのオリジナル資料を手掛かりに分析している。各時代の都市建築の環境構成の繋がりを示す図面にまとめながら、その系譜を論じている。そして、町並みや壁面線を、歴史性を担った統一と変化の共同的な生成を可能にする都市的環境の構成として捉え、パリの都市空間の分析の成果を通じて歴史的沈澱の共同性を論じることによって、都市的環境の構成が、生活空間における意味・歴史性の沈澱・蘇生を巡る意識的な分節的表現として捉えられるべきことを示している。

結びでは、本論文で得られた成果を要約し、今後の課題を記している。

論文審査の結果の要旨

本論文は、建築や都市環境における歴史的、文化的構成の手法と、そうした環境構成によって表現された意味、すなわち各時代の様々な設計行為により、歴史的に積み重ねられ（沈澱）、また再生されてきた（蘇生）空間的、形態的な表現内容である意味について、パリの都市建築を事例としながら研究したものであり、得られた主な成果は以下のとおりである。

1. 都市建築の環境構成において、歴史的な類似性や、手本を参照するものと手本として参照されるものの意味的な相互関係などに注目し、都市建築の理論的探求の中で、意味的な相互の関係づけとして隠喩、模倣、類型、類推などを見出した。それらを設計・計画における意味・歴史性の沈澱・蘇生として捉え直した。

2. パリのユニヴェルシテ地区における17世紀以後の計画図面の調査・比較研究を通じて、隠喩などの概念連鎖や沈澱・蘇生の概念が、都市建築の環境構成における意味・歴史性の役割を分析するための有効な方法的概念であることを示した。

3. パリの事例研究を通じて、パリの都市建築の環境構成が、意味・歴史性の沈澱・蘇生にかかわる設計・計画の共同的な構想に基づいていることを示し、都市建築の環境構成において沈澱・蘇生がなぜ必要なのかを明らかにした。

4. 歴史的景観の保存の必要性および都市建築の環境構成を歴史的に参照することの必要性の根拠を、都市建築の環境構成が個人や共同体を歴史的に連係させることに求め、都市建築が連携の契機となることを論じ、現代的な課題を明示した。

以上要するに本論文は、生活環境としての都市建築の環境構成における意味・歴史性のテクスト的体系を、パリの都市形成の歴史的な計画図面資料の意味論的分析によって明らかにし、意味・歴史性の貧困となった現代の都市的景観を再生させるための価値基準や環境構成のための知見を与えたものであり、学術上、實際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は、博士（工学）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成12年2月16日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行った結果、合格と認めた。